



さらしな の 里



第8号

「友の会」だより

2003・春



更級村の証し今も

戸倉町が九月、更埴市、上山田町と合併します。旧更級村の村名は既に昭和の大合併（一九五六年）でなくなりましたが、「更級」の呼び名は今も生き続けています。写真は木造校舎時代の小学校の鬼瓦です。

鉄筋コンクリートへの改築（一九七〇年）の際のPTA会長を長く務めた羽尾の矢島文雄さん（八四）によると、今の校舎入り口階段東側の校庭あたりの棟にのっていました。二階建てでそばに池と井戸があり、ほかの棟には階段を上って行き来しました。矢島さんの子供のころは「公使室」と呼び、昼ご飯になると、大釜で沸かしてあったお湯を鉄瓶を持ってもらっていたそうです。

増築を繰り返した旧木造校舎の中でも、早期に建てられ、ちょうど学校の玄関部分にあたるので、こうした立派な瓦をのせたのでは、と矢島さんは推測しています。

二つあった鬼瓦のうち一つは「どうしても欲しい」と言う解体業者に贈呈したそうです。もう一つは小学校に保管され、竹森松雄さんと翠川泰弘さんが今号のために持ち出し撮影しました。二つの足と顔からなり、重さは計三〇キログラムほどのようです。

来場者の目にどう映った？

第十回の節目となった縄文まつりは二〇〇二年十月二十七日、三百四十人を超えるスタッフで迎え、ジャンベ演奏、燻製料理などの新企画を加え盛大に行われました。好天にも恵まれ、人出は過去最高の四千五百人に上りました。このまつり、来場者の目にはどのようなように映ったのでしょうか。大勢の方からアンケートをいただいています。貴重なご意見、ご感想ですのでここで紹介します。

【Q】会場の印象はいかがでしたか

なんでこんなに人がいるんでしょう。みんながいきいきと体験を楽しんでいて私も楽しかったです(宮城県)

【Q】興味深かったイベントとその理由について

豊穰儀礼、身が引き締まる(戸倉町)

焼肉、おいしい(坂城町)

キビ脱穀、大変ですね(栃木県)

川魚、炭火で焼いておいしい(更埴市)

サケの蒸し焼き、燻製、昔の食事方法が体験できた(戸倉町)

ジャンベは前の催しで見たことがあるので楽しみでした。編物は特にやってみたくて思いました。とてもステキ

な敷物です(戸倉町)

【Q】スタッフの対応はいかがでしたか

焼肉のところのスタッフが殺気だつていて恐かった(長野市)

感じよかった(戸倉町)

素人つて感じ(長野市)

とっても良かったです。ご苦労さまでした。楽しむ経験が積み重なっているのが分かります(宮城県)

三重丸―記号で表記(長野市)

【Q】その他、ご意見など

初めて参加してあまりのすごさに驚きました。もう少し

場所が広ければ、もっと大々的に出来たと思います(戸倉町)

皆さん真剣に遊んでいらつしやつて感動しました(栃木県)



このほか、楽しかったイベントについてなど、多数の示唆に富む声がありました。こうした声を活かし、さあ、十一回に向けてレッツゴー。
(翠川泰弘)



今年の研修旅行(三月十五日)は、山梨県勝沼町などに広がる釈迦堂遺跡の博物館を訪ねた。まず目に飛び込んだのは大量の土偶。しかも、バラバラにされたもの。豊かな表情の顔などここからは全国の一割を占める約千百個体の土偶が出土しているとのこと。縄文の昔からの人類のすばらしさに感服。山梨県立科学館では童心に返り、展示物の一つひとつにじかに触れ、不思議を体験、楽しいひと時を過ごした。
(北村百合子)

更級中に校友会歌あり

友の会だよりの編集委員会で、「更級中学校に生徒会の歌があった」と、塚田克巳さんから聞き、どんなものか知りたくなりました。

塚田さんは「会歌」の作詞者でもあるというのですが、自分も同級生も記憶が定かではないというので、資料を探しました。

ありました。「学友・昭和30年度号・更級中学校」。A5判を少し小さくした約八十ページの冊子で、磯部にお住まいの古旗治男さんからお借りしました。奥様の季さんが更級のお生まれです。

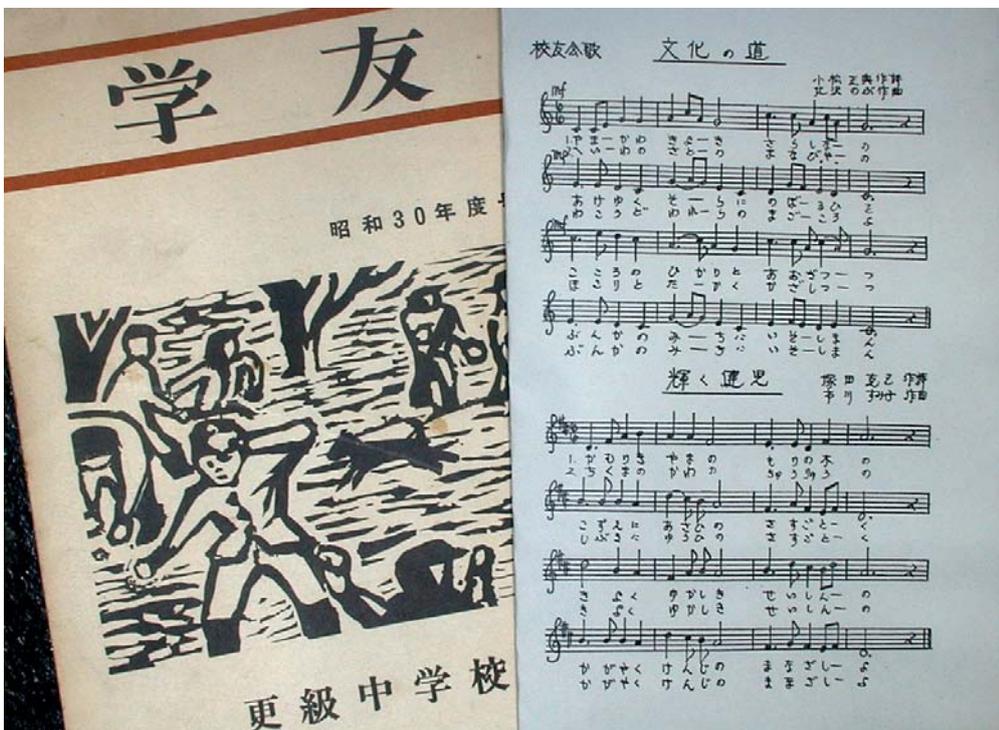
今の生徒会にあたる「校友会」の編集発行で、校友会誌の創刊号。扉の巻頭部分に「校友会歌」として「文化の道」と「輝く健児」の二曲が掲載されています。

校歌は「冠着山の峯高く…」と小学校のものと同じですが、校友会の歌として、生

生徒が自ら詞を書き曲つける

徒たちが自ら詞をつくって応募し、作曲も

生徒たちの手によるものでした。



塚田克巳さんもそれに応募していたのですが、当時をふり返って「冠着山に朝日があたってキラキラしているように、いつも瞳を輝かせ、純粋な気持ちでいたいという思いで作ったような気がする。今は雑念ばかりになつてしまつたが」

ところで、小学校にくらべ更級中学校の資料の少なさとまどいしました。

昭和四十三年更級小に入学した私は木造校舎を知る最後の世代ですが、今は寿食品の倉庫がある所にあつた中学校への渡り廊下をおぼえています。当時はすでに戸倉上山田中に統合されていましたが、忍び込んだり、手を伸ばしても届かない校庭の鉄棒で遊んだりしていました。

更級中学校の歴史は短く昭和二十二年（一九四七）から同四十年までの十八年間。それだけに、また興味深くなりました。（大谷善邦）

おぼろの冠着 ⑧

古峠。ここは古代の国道の名残の峠。坂井村側には峠下に「沓掛」という地名があり、ここで旅の安全を祈り、峠の神様を拝んだものである。

縄文人も大喜びした古峠

古代の人が麻績の盆地から登り、この峠に立ったときの思いはどうだったろう。狭い山あいの谷から抜け出たとき、それは思いもよらない美しさであったと想像される。

すぐ下には大きな川が平らかな原をうねるように流れ、広い広い平原は緑色に輝き、大きな木が茂っている。山々は重なり合っているか遠くまで連なり、末はかすんでいる。

千年前、この道は都と越後をつなぐ重要な道として、多くの官人たちが越えたのだ



が、みなみな、この開かれた光景に驚き、また楽しんでいただろう。

実はこの峠はもともつと前から人の通過があった。

縄文時代より前の旧石器時代、狩をする人々は南から来てこの峠に立つて、眼下の豊沃な大地に大喜びした。山を下つて千

曲川べりに魚をとったり、野原に獣をし止めたりしていたが、ある日、その大事な道具をなくしてしまった(?)。

芝原の中村栄治さん(故人)が畑でみつけ、今さらしなの里歴史資料館に展示されている尖頭器である。

時代が新しくなつて四千年位前のこと、縄文人の一行はこの峠を下り、御麓の冠着トンネル口の上にキャンブを張る。これが「ゆずり葉遺跡」。狼をしたり、ドングリなどの貯蔵もしたらしい。

この峠の直下、戦後災害でくずれて古道の姿が消えたが、復元できないかなあとの声もあり、期待したい。

(塚田哲男)

〔編集後記〕 鬼瓦について矢島文雄さんにお話をうかがう中で、木造時代の小学校舎の配置や当時の学校近辺の様子もおぼろげながら思い出すことができました。今は校庭の下になつていますが、小川が校舎の間を縫つて流れ、「公使室」の脇を流れていたそうです。

縄文まつりに対する来場者のアンケートは、答えてくださる方が多いそうです。それだけ、何かを書きたくなるものがあるということでしょうか。

塚田克巳さんの作詞による更級中学校の「校友会歌」。「友の会だより」では、メロディをつけて紹介できないのが残念ですが、塚田さんは古旗さんからお借りした楽譜をもとに歌ってくださいました。

古峠から望む善光寺平の大半が九月の合併後、新しいまちのエリアです。

(冠男)

さらしなの里友の会事務局

〒389-0812

長野県埴科郡戸倉町羽尾二四七の一

さらしなの里歴史資料館内

電話026(276)7511

FAX026(261)4161